

■犯人はカビ？

アトピー性皮膚炎患者のカユミなどのアレルギー反応は、カビ由来のタンパク質がヒトの汗に溶け込むことが原因であることを、広島大の秀道弘教授らのグループが突き止めた。

このタンパク質は、皮膚に普通に存在するカビ『マラセチア菌』の一種が分泌する『MGL-1304』だ。これが汗に溶け皮膚にしみ込むと、皮膚の細胞と反応し、アレルギーを引き起こす汗アレルギーなのだ。

秀教授グループは、1999年以降、4000人分の汗約600リットルをサンプルに実験を繰り返し分析、ようやくタンパク質を

特定した。

皮膚のバリアー機能が弱いアトピー患者やあかすり愛好者、皮脂の分泌が少ない高齢者の治りづらい皮膚病の多くが抗真菌剤を加えることにより軽快するのではと心躍る。

やったぜ秀教授！

平成25年8月分原稿

はらクリニック 原 徹